

担当者	山陽学園大学 地域マネジメント学部 地域マネジメント学科 准教授 神田 將志 086-901-0671 (ダイヤルイン)
-----	--

令和6年9月26日配信

「第6回高校生地域マネジメントコンテスト2024」最終審査会を開催します ～岡山県内唯一の高校生地域づくりコンテストに県内外から46作品が参加～

山陽学園大学地域マネジメント学部では、大学が主催する高校生対象で県内唯一の地域づくりコンテスト「第6回地域マネジメントコンテスト2024」の最終審査会(対面方式)を下記日程で行いますのでお知らせします。

「高校生地域マネジメントコンテスト」は、高校等での課題研究、部活動、サークル活動、自主研究などによる地域課題の発見や、それを解決するためのアイデア等を幅広く募集し、審査・顕彰するものです。

今回のコンテストには、中四国地方4県(岡山県、広島県、鳥取県、愛媛県)の12校から46作品の参加があり、高校生の地域への関心の高まりと、自ら地域を創ろうとする意欲が強く感じられるものとなっています。

最終審査会では、1次審査を通過した6校6作品について、高校生がプレゼンテーションを行います。地域の将来を担う高校生たちの豊かなアイデアと、エネルギー溢れる審査会となることが期待されます。

記

1. 開催日時

2024年9月29日(日) 13:30~17:30

2. 開催場所

山陽学園大学・山陽学園短期大学(岡山市中区平井1-14-1)

110周年記念館(DOMUS)3階多目的ホール

3. 開催概要

応募した12校(46作品)のうち、1次審査を通過した6校(6作品)がプレゼンテーション(15分)を行い、審査により下記の各賞を選定し表彰する。

※最優秀賞(1校)、優秀賞(2校)、岡山商工会議所会頭賞(1校)、奨励賞(2校)

4. その他

- 別紙に1次審査を通過した6校(6作品)の学校名と作品タイトル、作品概要を記載しております。
- 地域マネジメントコンテスト2024のチラシを併せてお送りいたします。

【別紙】

第6回地域マネジメントコンテスト2024 最終審査会発表作品一覧（発表順）

1. 愛媛県立西条高等学校

「高齢者が生き生きと暮らせる社会を目指して」

西条市をもっと活気あふれる街にするため、地域カードゲームを用いたレクリエーションを通して、私たち高校生が高齢者と触れ合いながら認知症の予防を行えないかと考えた。西条市に長く住むお年寄りの方々にとって、西条はとても身近な事柄だと考え、「西条市」にまつわる地域カードゲームを作成し、楽しみながら脳の活性化を促進したいと考えた。

2. 岡山県立玉島商業高等学校

「高校生がつなぐ『共助』！地域の防災力向上プロジェクト」

私たちの高校が所在している岡山県倉敷市玉島地域では南海トラフ地震によって甚大な津波の被害を受けることが想定されているが、対策としては行政がハザードマップの作成することに留まっている。そこで高校生が主体となって、本番を想定して地域住民とともに地域の防災について考える内容を取り入れた避難訓練を実施した。振り返りの内容や参加者のコメントから、今後も地域にとって必要な取り組みとなったと考える。

3. 岡山県立烏城高等学校

「車いす利用者にも住みやすい街とは・・・」

普段生活する中で、車いす利用者をほとんど見かけない現状に疑問を感じ、車いす利用者が安心して外出できる街づくりに関心を持った。実際に車いすで街中を走行してみたり、当事者の方から話を聞いたりすることで健常者にはわからない「様々な不自由」があり、特に外出先でのトイレに対する不安が外出をためらわせていると感じた。

そこで、多目的トイレの手すり等の設備について調査し、この調査結果をインターネットを通じて情報発信することで、車いす利用者の快適な外出につなげ、地域の活性化を図りたいと考えた。実際に調査を進めると新たな課題も見つかり、長期間に渡る活動が重要だと感じた。

今回は先輩たちの代から続く私たちの2年間の活動について発表する。

4. 岡山学芸館高等学校

「持続可能な福祉社会の実現に向けて

ー『循環型福祉社会』の実現に向けた高校生プロジェクトー

近年、日本では超高齢社会の進展にともない、高齢者の孤独死問題や老々介護問題など様々な問題を抱えている。そのなか、児童福祉問題も深刻化しており、子どもの

貧困や児童虐待など子どもの生活や命も脅かされている。高齢者や子どもの生活を守るため、社会保障制度が確立しているが、それだけでは限界がある。そこで、私たちは地域全体で高齢者や子どもを支える福祉社会を形成できないかとプロジェクトを行った。その活動と成果を発表し、これからの持続可能な福祉社会のあり方を提言したい。

5. 鳥取県立鳥取西高等学校

「鳥取城下町における旧町名復活の要否と旧町名を活用したまちづくり

ー鳥取市片原5丁目を中心に考えるー」

2度の災害によって有形の文化財の大半を消失した鳥取城下町において、藩政時代の面影を残す旧町名を無形の文化的遺産と捉え、その活用方法について研究した。特に鳥取城下町において旧町名の復活は地域の課題解決に有用であるかを調査するため、住民へのインタビュー調査や学校内でのアンケート調査、文献調査などを行った。また旧町名の復活以外での旧町名の活用方法も模索するため、鳥取城下町の旧町名を巡る位置情報型デジタルスタンプラリーを作成し、モニター調査を行った。

6. 岡山県立津山商業高等学校

「規格外の麺がスイーツに！？

～フードロス対策と障害者雇用につながるソーシャルビジネスを創出～」

製造の過程で規格外となり、廃棄されていた袋うどんを、就労継続支援B型事業所と協力し、ワッフルやぜんざいに再加工して販売することで、フードロスの低減とB型事業所の収入の向上につなげるアイデアを考えた。本校では、再加工する商品の企画や販売戦略を提案したほか、校内販売や商店街での販売、イベント出店等、継続的な販売の支援も行った。